

令和7年10月



スクールカウンセラー 中野隆治



「通り過ぎる」



二学期に入り、はや、ひと月が経ちましたが、みなさんの高校生活は順調にいらっているでしょうか。

みなさんの悩みを聞いていると、人間関係という文字が浮かび上がってきます。クラスの友達、部の先輩・仲間、先生、保護者、兄弟…まるで、人間関係という舞台の上で、毎日真剣に演技し、疲れてしまっているような印象すら受けるのです。

よく価値観の違いという言葉が、人間関係がうまく行かなかった時に使われますが、価値観の違いなど、人間がそれぞれ違う個性を持って生きている以上、当たり前のことだと思っています。むしろ、価値観が違っている人間が、その違いを認識しつつ、どのように手を取り合っていけるのかということが、人間関係の基本ではないかと思ったりします。詩人金子みすずの詩のように、「みんなちがって、みんないい(『わたしと小鳥とすずと』)」と考えることが、大事ではないかと思うのです。とはいながらも、毎日のように、教室や、部活動、家庭などで、ちょっとした行き違いがあり、様々な感情がぶつかり合ったりします。

どうすればいいのでしょうか。

ドイツの哲学者フリードリヒ・ニーチェは、「愛せなければ、通り過ぎよ(『ツァラツストラはこう言った』)」と言っています。どうしても自分とはかみ合わない相手がいるとすれば、相手とは少し離れてみることだと言うのです。通り過ぎてしまうと、相手を客観的に見ることができ、これまでの感情的であった自分を理性的に見つめなおすことができるかもしれません。とにかく、いったん通り過ぎてしまえばいいのではないのでしょうか。ふたたび、^{ひず}歪んでいた関係が、以前よりも^{きょうこ}強固に結びつく可能性に気づくことがあるかもしれません。

通り過ぎた後、では、どうすればいいのでしょうか。

新しい関係を探す旅に出るのです。ほんのちょっとした小さな旅です。自分という個性に合った人や、何かが自分と合っている人…そんな人達を探す旅に出るのです。学校だけとは限りません。世界を少し広げて、クラス以外の世界からも見つかるかもしれないのです。フランスの作家アルベール・カミュの言うように、自分の後ろについてきたり、自分の前をさっさと歩いて行くのではなく、「ただ、僕と一緒に歩いて、友達でいてほしい(『友への手紙』)」という相手に^{めぐ}巡り合うかもしれないのです。

今の自分を取り巻く環境が、自分にとってマイナスのイメージしか持てなかったのなら、ニーチェの言うように通り過ぎて、新しい巡り合いを捜しに行ってください。人と人との出会いには、空にきらめく星のように、様々な出会いにきらりと光る一瞬があるのではないのでしょうか。